（2）生　活

保育所では子どもたちが健康でのびのびと過ごし、豊かな心でまわりの人たちと仲良く生活できるようにすることが大切です。そのためには、毎日の積み重ねの中で生活の基礎を学び、人権感覚を養い生きる力を身につけることが必要です。

保育者は子どもの気持ちに寄り添って、ここちよく過ごせる生活リズムが身につくようにすること、ありのままの自分が認められて安心して過ごせるようにすること、集団の中で居場所があり、「ホッ」とできる安らぎの場と時間をつくるようにすることなど多くの役割を担っています。

また、子どもたちが将来にわたって生き生きと生活するために、身近な自然を守り、環境にやさしい生活の仕方が身につくよう働きかけていくことが求められています。

人権保育の視点

- ゆっくり、ていねいに接し、生活の基礎、方法が子どもの身につくようにしていく。
- それぞれの家庭の生活を大切にしながら、生活リズムを整える。
- 安心して、落ち着いて過ごせるようにする。
- 生活と環境のつながりを学びながら、地球にやさしい生活づくりを意識づける。

具体的な対応

- 家庭と協力し、生活の背景を知り、子どもの気持ちに寄り添って、よりよい生活習慣を身につけるようにする。
- 一人ひとりの思いをよく聞き受けとめながら、自分の気持ちを表現できるようにする。
- 心地よく生活するために、生活の場と遊びの場を区別する等、環境つくりを工夫する。
- 保育者は、生活のなかで常に人権を意識した言葉かけをする。
- エコキッズの取り組みを通して、環境にやさしい生活方法を知り、地球資源を大切にする生活スタイルを身につけるようにする。

◆　保育の事例

生活リズムを整えるためには保育士の粘り強い働きかけと家庭の協力が大切です

早寝早起きについて

　生活様式の多様化により、大人の生活に合わせて夜遅くまで起きている赤ちゃんや子どもの姿が、気になる問題となってきました。そこで親子で目標をつくり、「７時までに起床する、９時台に就寝する」ことを目標に取り組みました。

①取り組みにあたり大切にしたこと

・４歳児はほめられる事を素直に喜べる時期なので、子どもの姿を良く見て、小さな変化にも気づき、ほめる場面を多くした。
・お便り帳を活用し、保護者との連携を密にした。
・クラスだよりを活用し、子どもの変化を書き、他の家庭への励みとした。
・取り組めない保護者の話をよく聞き、負担のないようにした。

②取り組みを通し感じたこと

・ほめることで自信を持ち、描画、体育面でも成果が現れ、粘り強く取り組めるようになった。
・生活リズムが確立している子は、自信を持ち生き生きと生活できた。
・習慣が身につくには、保護者の努力が大きかった。
・子どもの成長ぶりを、保護者とともに喜ぶ事ができた。

生活習慣を無理なく身につけるためには、子どもの気持ちに寄りそって、子どもが行動を選択し、自分で気づく事を大切にしていきます

排泄について

　散歩にでかける前、２歳児の子どもたちに「おしっこに行きたい子はトイレに行っておいで。」と声をかけました。子どもが「行かない！でない！」と言ったので、そのまま散歩にでかけました。

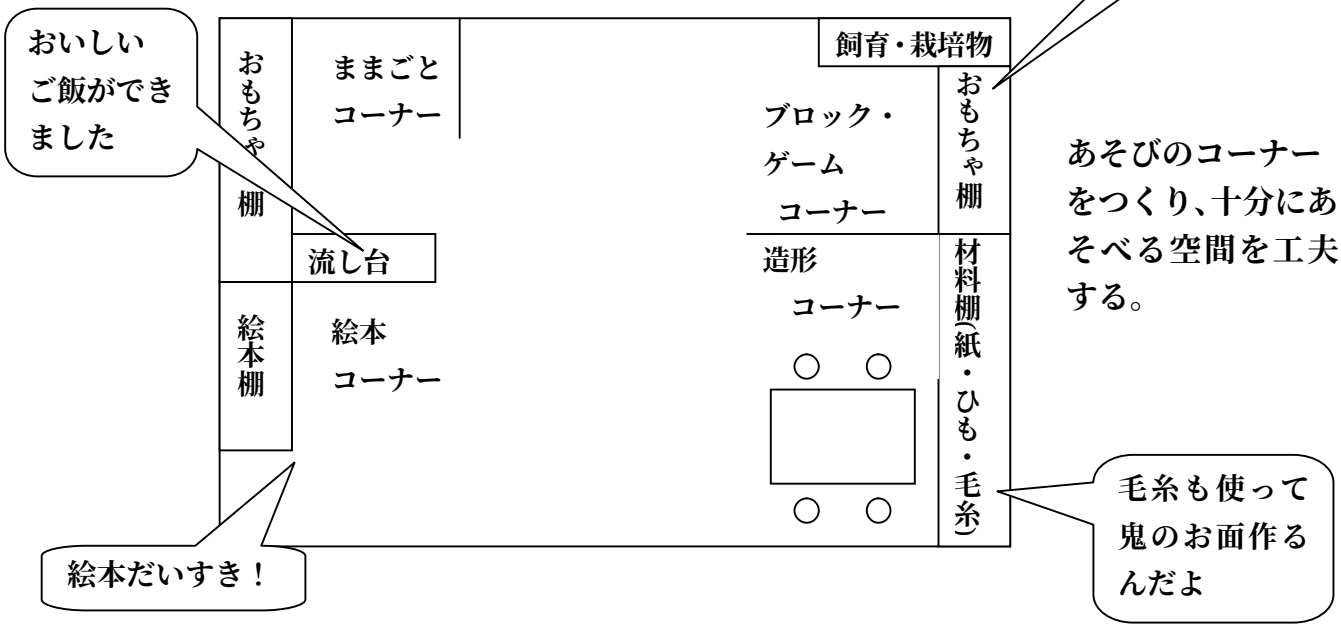
　しかし、途中でもらしてしまいました。「おしっこでちゃったね、気持ち悪いね、トイレでしようね。」と話しました。

　その後、散歩の時は、自分から「おしっこに行く。」と言ってきました。こんな時「おりこうだね。」「えらいね。」とは言わず、「すっきりした？」「きもちよかったね」と声をかけるようにしました。

安心して落ちついて、楽しく過ごせる環境づくりを考えます

- 生活の場と遊びの場を区別し、落ち着ける環境を整える。
- 遊びのコーナーで十分遊び、満足感が持てるよう、時間を細かく区切らない。
- 一人ひとり友達がいるか、好きな遊び・居場所があるか気にかけ見守る。
- 生活のなかで、安心感、安定感、満足感、存在感、を大切にする。

ほら、みてみて！
なんでも作れるよ



あそびのコーナーをつくり、十分にあそべる空間を工夫する。

保育者は言葉かけを大切にしましょう

なにげなく話す言葉で、悲しい思いをしている子どもはいませんか。

エコキッズに取り組み、環境に対する感性を育みます

いつでも、どこでも、だれでも、エコライフ。次のかるたはヒントがいっぱい！
簡単にできることから始めましょう。

あいすのかっぷはあらって
きれいにしげんゴミ

きずついたたまちゃん
のかおにつりばりが

まいつき８かは
かんきょうほぜんのひ

らっぷのしんは
もえるゴミ？